

【延期開催】第1回 市町村・公民館等職員専門研修 実施レポート

期日：令和5年12月15日（金） 参加者：16名（うち市町村から10名）

『「学び」の場への住民の主体的参画』をテーマに、7月21日（金）に開催予定だった本研修は、諸般の事情により12月15日（金）に延期して実施しました。内容は次のとおりです。

【午前 講話・演習】

「新しい防災の考え方と防災ボランティアを通じて育まれる力」と題して、日本赤十字秋田短期大学の**及川 真一**氏による講話と演習を行いました。

災害への対応について、国の方針が「自分の命は自分で守る。大事なものは自分で守る」となったことを指摘し、東日本大震災で被災した福島県沿岸の現状や、令和5年7月の豪雨災害時の写真を示した上で、防災を学ぶ上で重要なことは、『守りたい何かをどう守れるか』であると強調しました。そして新しい防災への取組として、公民館や寺院での防災講座を例に説明されました。また、ボランティア活動についてのとらえ方として、『自分を忘れて他人のために尽くす』『嫌なことを引き受けて、良いことを人にあげる』という意味の「もうこりた＝忘己利他」を挙げました。

参加者は最後に、段ボールベッドや屋内用テントの設営を行い、実際に避難所を運営する際、どのような準備が必要になるのか、また、どのような形状や仕組みのものがより効果的であるのか、体験的に学びました。



【午後 講話・演習】

(株)サンエスコムニティ代表取締役の**佐藤 貴俊**氏を講師に、「県内企業が主体で動く行政・学校連携と障害者の生涯学習推進」と題した講話・演習が行われました。

講話では、身内が当センター職員として勤務していたことをきっかけに始まった障害者の生涯学習に関する学びと実践について話が進められました。中でも、目指す目標が共有されたのちに協働での開催にこぎ着けたポッチャ交流大会のこと。その時参加していた障害のある方の両親が「この子を残して死ぬわけにはいかない」と言っていたことから障害者の生涯学習に関心を持つようになったこと。それをきっかけに「あきた With」を設立し、「知り合い、触れ合い、正しい理解をする」ための活動を進めてきたこと。さらには、活動を進める中で、新たな挑戦として秋田県中小企業家同友会に「障がい共生委員会」を設立したり、発達障害のある方を社員として採用したりしたこと。障害や育てづらさに悩む保護者の心のよりどころで、障害のある子どもたちが得意なところを伸ばす場所でもある「アートキッズ療育あきた」を設立したこと。そしてこれらの取組を通じて、一人でも多くの人に幸せになってもらい、共生社会の実現に向かうことの必要性を説く姿に、参加者はその重要性を深く感じ取っていました。

その後の演習では、各グループで講話の感想を共有した後、自由に他グループの感想を見て意見交換を行い、最後に「みんなで笑顔になるために、私たちにできることについて話し合おう」との題で自由に話し合いました。参加者は新たな、そして多くの意見に触れ、理解を深めるとともに、今後の自身の取組の方向性について考えていました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・ 防災については、これまでも研修・実践をしてきたが、今回の研修を受けて大いに学習意欲が刺激された。
- ・ 特別支援学校の職員、保護者、各企業の人事担当等にも聞かせたい内容だと感じました。
- ・ 思いの強さが伝わる内容でした。第一線で活躍されている方々のお話を聞くことができ勉強になりました。